

佐賀県の方言は、佐賀藩の地域で使われた「佐賀方言(東部・西部)」、唐津藩と幕領で使われた「唐津方言」、対馬藩の飛び地で使われた「田代方言」に大別されます。

現在では、これらの方言もしだいに失われつつあります。

□佐賀県の方言区画



(福山裕著「佐賀弁一萬語」を参考に作成)

佐賀方言

鳥栖市西部、みやき町、上峰町、吉野ヶ里町、神埼市、佐賀市、小城市、多久市、江北町、大町町、白石町、武雄市、有田町、伊万里市の一部、嬉野市、鹿島市、太良町、佐賀藩だった諫早市、飛び地だった長崎市の深堀町、雲仙市国見町神代などで使われていました。

佐賀方言は、さらに小城市から東では佐賀東部方言、多久市、江北町、白石町から西は佐賀西部方言に分けられます。

唐津方言

唐津藩や幕領だった唐津市、および伊万里市波多津地区、黒川地区、大川地区の方言です。

田代方言

対馬藩の飛び地だった三養基郡基山町や鳥栖市東部、鳥栖市を流れる番所川の東側の方言です。

□県内の方言の特徴

佐賀方言の特徴

○こそあど言葉

標準語	佐賀方言	唐津方言・田代方言
こんな	こがん	こやん、こぎやん
そんな	そがん	そやん、そぎやん
あんな	あがん	あやん、あぎやん
どんな	どがん	どやん、どぎやん

(出典/志津田藤四郎著「佐賀の方言(下巻・総説編)」)

○動詞の語尾の「る」は、佐賀東部方言では詰まる音になり、佐賀西部の有明海に近いところ(白石町、小城市芦刈町など)の方言では詰まる音になるものと長音化するものがあります。

標準語	佐賀東部方言	佐賀西部方言(有明海に近い所)
来る	くつ	くつ
する	すつ	すつ
食べる	たぶつ	たぶつ
ある	あつ	あー;あつ
起きる	おきつ	おきー;おきつ
取る	とつ	とー;とつ
困る	こまつ	こまー;こまつ

(志津田藤四郎著「佐賀の方言(下巻・総説編)」を参考に作成)

■佐賀県の方言には古語が残っています。

平安～室町時代に使われていた言葉が残っています。

くちなわ(へび)、とぜんなか(何もすることがなく、さびしい)、すらごと(虚言)、ほけ(湯気)、せつちん(トイレ)、ひだるか(空腹)、ねまー・ねまつ(腐る)など。

■佐賀独特の「漢語方言」があります。

佐賀藩の武士が学んだ漢語が庶民に広まり、話し言葉として使われるようになったといわれています。

しっきゃあ(悉皆=全部)、べんぶ(偏類=類)、てんなう(点合=許可を得る)、おうかん(往還=表通り)、あつぷう(厚風=華麗な)、ばつきい(伯耆=伯父・伯母)など。

標準語
一例 あんなにしないと
いけないのか

佐賀東部方言
あがん せんば でけんとかのっ

佐賀西部方言
あがん せんば でけんとかのー

唐津方言・田代方言
あやん(あぎやん)
せにやー ならんつかい

(出典/志津田藤四郎著「佐賀の方言(下巻・総説編)」)

○佐賀方言によく見られる長音化した言葉

きゅー(=今日)、やーらしか(=愛らしい)、しゃー(=菜、おかず)、ちゃー(=鯛)、きやー(=貝)、じゃーこん(=大根)、ひやー(=鯛)、しーか(酸っぱい)

「きゅーのしゃーは、ちゃーとじゃーこんよ」は「今日のおかずは鯛と大根だよ」という意味よ。

調べてみよう!

自分が住んでいる地域の方言を調べてみよう!